化学療法を施行した血液腫瘍患者における
ヘルペスウイルス感染のリスク因子の検討

研究の意義、目的：

血液腫瘍に対する化学療法は、強度の骨髄抑制を伴い、しばしば重篤な感染症を引き起こす場合があります。実臨床において、化学療法施行後にヘルペスウイルスに感染される患者さんがしばしば認められました。重篤なヘルペスウイルス感染は治療の継続に影響を及ぼし、さらに痛みを伴う帯状疱疹等は患者さんの QOL を低下させる要因となります。しかしながら、血液腫瘍におけるヘルペスウイルス感染のリスク因子に関する報告は乏しいのが現状です。そこで、化学療法を施行した血液腫瘍の患者さんにおけるヘルペスウイルス感染のリスク因子について調査・検討し、その因子の対策をたてることにより血液腫瘍に対する治療継続、さらには患者の QOL 向上につながることが可能となるようにします。

方法：

国立がん研究センター東病院で、2008 年 4 月から 2015 年 4 月までに血液腫瘍に対し学療法を施行した患者さんを対象とします。患者基本情報（年齢、性別、疾患名、既往歴、stage、施行レジメンなど）、治療開始日、治療終了日、治療開始時の血液検査値、抗ウイルス薬予防の有無、帯状疱疹発現の有無、発現日について診療録を用いて後方視的調査を行い、ヘルペスウイルスに感染した患者さんとしなかった患者さんにおいて比較し、背景因子との関連について検討します。

個人情報保護に関する配慮：

診療録の閲覧は個人情報を伴いますが患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用に別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、下記連絡先まで申し出てください。

問い合わせ・苦情等の相談窓口：

〒277-8577　千葉県柏市柏の葉 6-5-1
国立がん研究センター東病院　血液腫瘍科　根津雅彦
FAX 04-7133-6502/TEL 04-7133-1111　（内線　91482）